

政策研究大学院大学
2024年度 財務報告書

Financial Report 2024



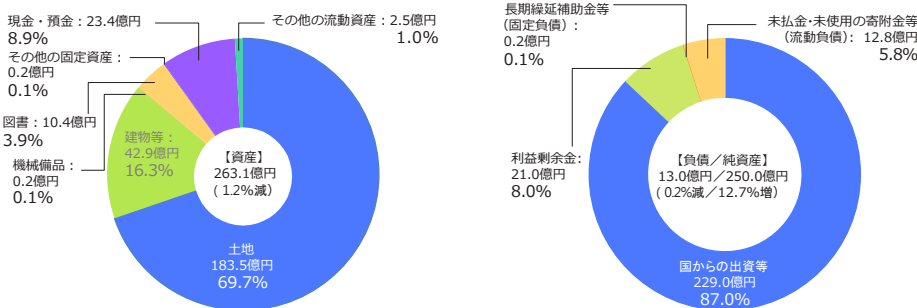
Contents

- 01 1. GRIPSの活動を支える資金とお金の概要
- 02 2. インプット(受入額)の概要
- 03 3. アウトプット(運営状況)の概要
 - 財産(資産)と負債
 - 収益と費用
- 07 4. お金の流れ(収支の現状)
- 08 5. 国の会計基準に沿った決算の状況

1. GRIPSの活動を支える資金とお金の概要

2023年度末の土地や建物の保有、国からの出資や借入金などの財務状況

～2023事業年度 貸借対照表の概略・構成比率(2024.3.31現在)

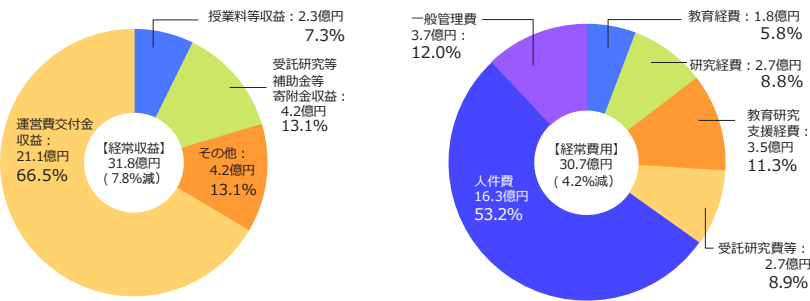


- 2023年度末の資産は、263億7百万円（対前年度比▲313百万円）、負債は、13億4百万円（同▲2億64百万円）、純資産は、250億4百万円（同▲49百万円）。
- 本学の業務を行うために必要な財産（資産）は、主に国から出資されたものなど（純資産）で約9割を占め、残り1割が国からの交付金、寄附金等により取得したもので構成されています。

2023年度の財務運営状況（入ったお金と使ったお金）※

～2023事業年度 経常収益・経常費用の概略・構成比率（2023.4.1～2024.3.31）

- 2023年度における経常収益は、31億76百万円（対前年度比▲2億68百万円）、経常費用は、30億7百万円（同▲1億36百万円）。



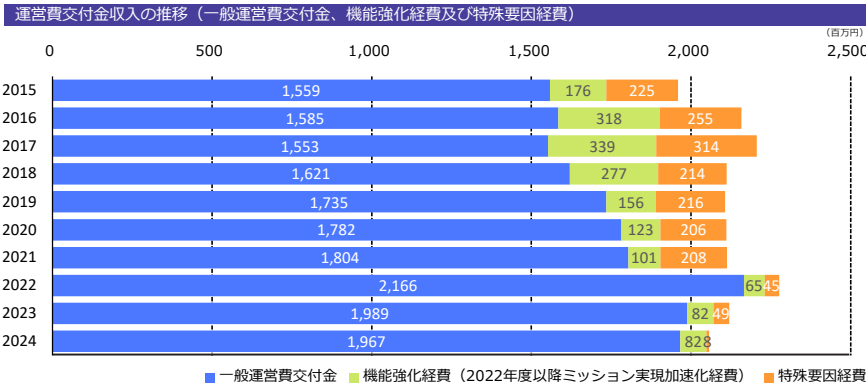
- 経常収益の構成は、運営費交付金収益が67%、授業料等収益が7%を占めています。また、受託研究等・補助金等・寄附金収益は13%となっております。
- 経常費用の構成は、人件費で5割(53%)を占め、教育研究経費（教育経費・研究経費・教育研究支援経費）が3割（26%）、一般管理費が1割（12%）となっております。

※国立大学法人では、運営費交付金、授業料等、受託研究等、補助金等、寄附金は、そのお金を受領しても直ちに収益としては計上されません。これらの資金は一旦負債計上し、その後、教育研究活動等の費用として使われ、法人の業務が進行することにより収益へ振り替えられます。これを「収益化する」といいます。受け入れた（負債計上した）資金の全てが当該年度に収益化されないことがあるため、各年度の「収入額」と「収益化額」とは、必ずしも一致しません。

2. インプット(受入額)の概要

国からの主な財政投入

- 2023年度の運営費交付金収入（キャッシュ・フローベース）は、22.0億円（対前年度▲103百万円、▲4.6%）

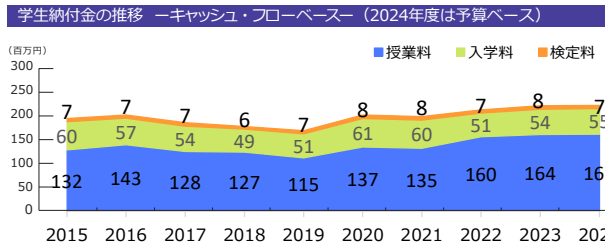


※上図は、一般運営費交付金（基礎的な運営費交付金）、機能強化経費（教育研究活動の機能強化に要する経費）及び特殊要因経費の年次推移を示しています。（2015年度～2023年度は実績、2024年度は予算ベース）

学生納付金

- 学生納付金は、右図のとおり毎年約2.0億円程度（運営収入の9%程度）

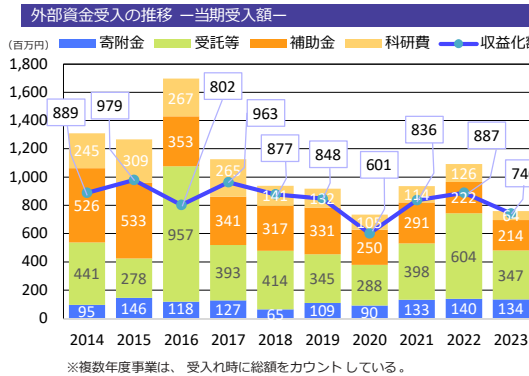
※学生納付金の額は「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」による「標準額」を踏まえ、一定の範囲内で各法人が、その額を決定することとなっています。（授業料（年額）642,960円）



外部資金受入

- 科研費及び補助金を加えた受入額は、75.9億円（対前年度▲3.3億円、▲30.5%）
- 外部資金（科研費及び補助金を除く）の受入額は4.8億円（対前年度▲2.6億円、▲35.4%）

外部資金には、企業等のみなさまなどからの寄附金、文部科学省を含む各省庁等からの受託事業などがあります。毎年、基礎的運営費交付金が減少していく中、教育・研究の活性化と運営の安定化のためには、このような資金がますます重要なものとなって考えています。



※複数年度事業は、受入れ時に総額をカウントしている。

3. アウトプット(運営状況)の概要

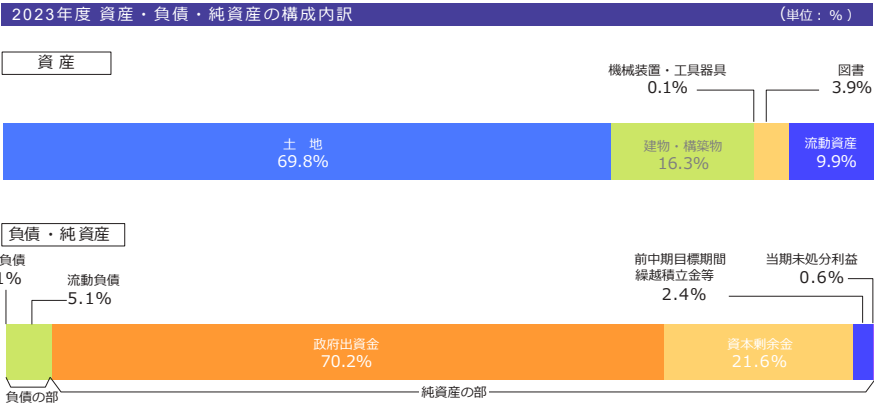
1 財産(資産)と負債

貸借対照表 (Balance Sheet)

期末における資産、負債及び純資産の残高を示し、本学の財政状態を表すものです。

負債の部と純資産の部は「資金の調達源泉」を、資産の部は「調達された資金の運用形態」を示しています。

- 資産の部・・・土地・建物などの固定資産が大半を占めています。
- 負債の部・・・寄附金債務などの流動資産が大半を占めており、計画的な支払等を通じ安定した財務運営に努めています。
- 純資産の部・・・負債・純資産合計の94%を占めており、そのうち66%は政府出資金です。



貸借対照表

(単位：百万円)

勘定科目	2022年度	2023年度	増減
資産の部	26,620	26,306	▲314
固定資産 ^{※1}	23,830	23,712	▲118
土地	18,351	18,351	-
建物	4,367	4,255	▲113
構築物	36	32	▲4
機械装置	0	0	-
工具器具備品	24	13	▲11
図書	1,034	1,047	13
特許権仮勘定	1	1	-
ソフトウェア	16	12	▲4
電話加入権	1	1	-
流動資産	2,790	2,594	▲196
現金及び預金	2,008	2,341	333
未収学生納付金収入	1	3	2
その他の未収金	766	240	▲526
その他の流動資産	15	10	▲5
負債の部	1,568	1,305	▲263
固定負債	28	19	▲9
長期繰延補助金等	20	19	1
長期前受受託研究費	8	-	▲8
流動負債	1,540	1,286	▲254
運営費交付金債務	1	9	8
寄附金債務	463	469	6
未払金	474	336	▲138
その他の流動負債	603	472	▲131
純資産の部	25,052	25,004	▲48
政府出資金	17,507	17,507	-
資本剰余金	5,492	5,392	▲100
利益剰余金	2,053	2,105	52
前中期目標期間繰越積立金 ^{※2}	696	596	▲100
教育研究積立金	-	271	271
積立金 ^{※3}	-	1,086	1,086
当期末処分利益	1,357	152	▲1,205

※単位未満を四捨五入して記載しているため、合計額などが合わない場合があります。

国から受け入れた運営費交付金、学生から納付された授業料及び企業等から受け入れた寄附金は、受領時に収益とするのではなく債務として流動負債へ計上します。
これは、教育や研究など、交付額や受領額に見合う一定の事業を実施する責務を負っていることによります。これらの債務は、機関の経過や事業のための支出額等に伴い、収益化されます。

【貸借対照表に関する特記事項】

- (※ 1) 固定資産▲118百万円：建物等の減価償却による減少
- (※ 2) 前中期目標期間繰越積立金▲100百万円：前中期目標期間繰越事業の実施に伴う減少
- (※ 3) 積立金+1,086百万円：国立大学会計基準の改定に伴う増加

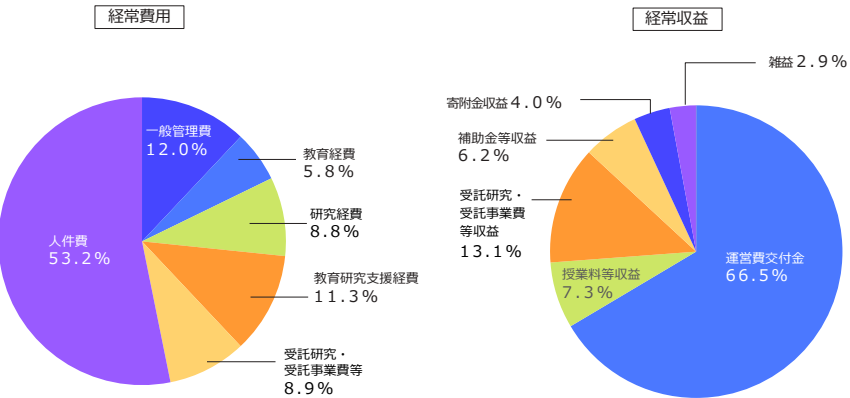
3. アウトプット(運営状況)の概要

2 収益と費用

損益計算書 (Profit and Loss Statement)

会計期間に費用、収益がどれだけ発生したかを表すものです。
国立大学法人が教育・研究等の業務を実施することにより、どのような費用が生じ、その費用によりどのような収益が生じ、その結果、どのような利益あるいは損失が生じたかという状況を明らかにしています。
なお、研究者個人に交付された科学研究費補助金等は含まれていません。

2023年度 経常費用・ 経常収益の構成内訳



収益と収入の違いとは？

● 収益・費用・・・発生主義会計

● 収入・支出・・・現金主義会計

収益があるが、収入でないもの (例) 利息等の未収収益	収入であるが、収益でないもの (例) 手付金等の前受収益
支出であるが、費用でないもの (例) 家賃等の前払費用	費用であるが、支出でないもの (例) 減価償却費

損益計算書

(単位: 百万円)

勘定科目	2022年度	2023年度	増減
経常費用	3,207	3,071	▲136
業務費	2,851	2,702	▲146
教育経費	181	178	▲4
研究経費	243	271	28
教育研究支援経費	295	349	54
受託研究費	472	164	▲308
共同研究費	1	1	▲0
受託事業費等	83	107	24
人件費	1,574	1,632	58
一般管理費	356	696	13
経常収益	3,445	3,176	▲268
運営費交付金収益	2,222	2,112	▲110
授業料等収益	222	233	10
受託研究収益	487	239	▲247
共同研究収益	2	1	▲1
受託事業等収益	100	175	75
補助金等収益	214	197	▲18
寄附金収益	85	128	43
財務収益	0	0	0
雑益	113	192	▲21
経常利益	237	105	▲132
臨時損失	0	0	0
臨時利益	1,118	0	▲1,118
当期純利益	1,356	105	▲1,250
目的積立金取崩額	2	46	45
当期総利益 ^{※1}	1,357	152	▲1,206

※単位未満を四捨五入して記載しているため、合計額などが合わない場合があります。

(※1) 当期総利益：
● この利益は、資金の裏付けのある利益であり、文部科学大臣の経営努力認定を受けることによって目的積立金として積み立てることができます。

4. お金の流れ(収支の現状)

キャッシュ・フロー計算書 (Cash Flow Statement)

会計年度における資金（キャッシュ）の流れ（フロー）に着目し、一定の活動区分として表示した計算書です。「貸借対照表」や「損益計算書」からは読み取ることのできない、資金の流れや過不足を表すものです。

損益計算書が当期に発生した費用及び収益を表しているのに対し、費用及び収益とは無関係の借り入れや出資の追加なども含めて「現金の受け払い」の事実を認識・測定するものであり収入（プラス）、支出（マイナス：▲）という区分で表示されます。

(単位：百万円)			
科目	2022年度	2023年度	増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	264	408	144
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲925	▲1020	▲95
人件費支出	▲1,968	▲1,778	190
その他の業務支出	▲361	▲407	▲46
運営費交付金収入	2,223	2,120	▲103
学生納付金収入	217	226	9
受託研究収入・受託事業等収入	419	775	355
補助金等収入	227	220	▲7
寄附金収入	135	130	▲5
その他の業務収入	111	81	▲30
預り金の増減	196	62	▲135
国庫支出金の支払額	▲10	-	10
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	273	▲576	▲848
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	▲127	▲76	51
定期預金の払戻による収入	800	400	▲400
定期預金の預入による支出	▲400	▲900	▲500
施設費による収入	-	-	-
利息及び配当金の受取額	0	0	0
III 資金増減額	537	▲168	▲704
IV 資金期首残高	1,072	1,608	537
V 資金期末残高	1,608	1,441	▲168

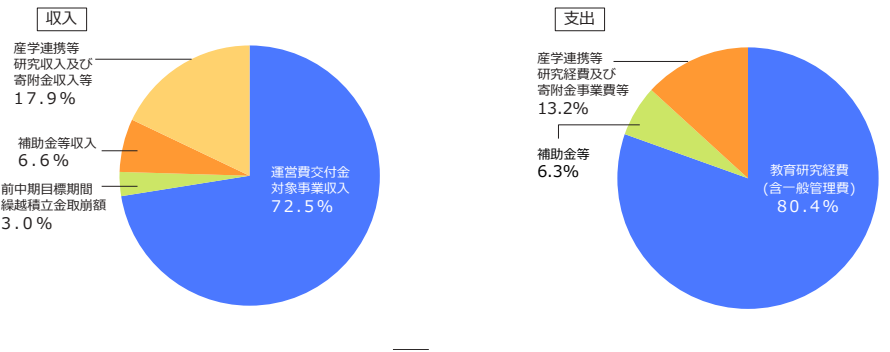
※単位未満を四捨五入して記載しているため、合計額などが合わない場合があります。

5. 国の会計基準に沿った決算の状況

決算報告書 (Earnings Statement)

この報告書は、国における会計認識の基準（現金主義＋出納整理期）に準じて作成することとされており、国立大学法人の運営状況の見込みとその実績を表すものです。具体的には、年度計画における予算額（文部科学省から示される運営費交付金算定上の予算額等を基に算定したもの）と実際に執行した決算額を対比しています。なお、研究者個人に交付された科学研究費補助金等は含まれていません。

2023年度 収入決算額及び支出決算額の内訳



(単位：百万円)			
区分	予算額	決算額	増減
【収入】			
運営費交付金	2,107	2,120	13
補助金等収入	-	220	220
自己収入	323	296	▲26
授業料、入学金及び検定料収入	230	227	▲3
雑収入	93	70	▲23
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	247	598	351
前中期目標期間繰越積立金取崩額	149	100	▲49
計	2,825	3,334	509
【支出】			
業務費	2,578	2,488	▲90
教育研究費	2,578	2,488	▲90
補助金等	-	195	195
産学連携等研究経費及び寄附金事業等	247	409	162
計	2,825	3,093	268

※単位未満を四捨五入して記載しているため、合計額などが合わない場合があります。



政策研究大学院大学 2024年度 財務報告書

国立大学法人政策研究大学院大学

〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1

TEL : 03-6439-6000 (代表) FAX : 03-6439-6010 (代表)

URL : <http://www.grips.ac.jp/>